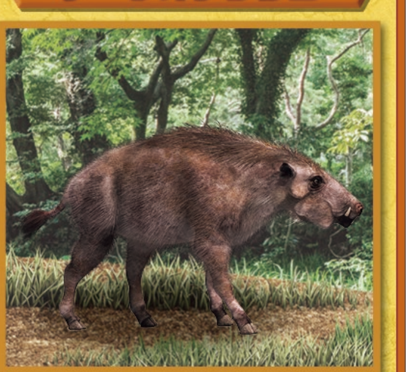
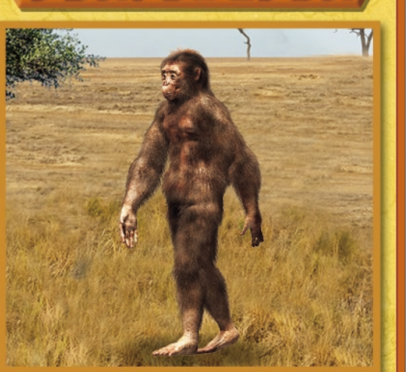
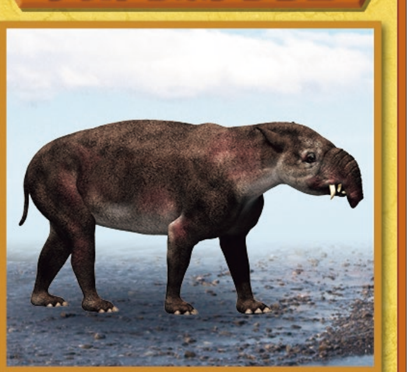
アーケオテリウム

現在のイボイノシシに似たすがたでしたが、頭が大きく、ほおのよこが出っぱっていました。かたい果実や動物の死がいなど、さまざまなものを食べたと考えられています。

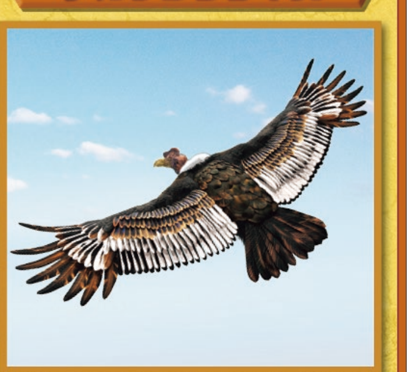
●クジラ偶蹄目エンテロドン科●体長1.5m●北アメリカ●始新世～漸新世

アウストラロピテクス

鮮新世の終わりごろ、アフリカの東部や南部にあらわれたヒトで、直立二足歩行をしていたと考えられています。せはあまり高くなく、石などを道具として使っていたとされます。現在7種が見つかっています。

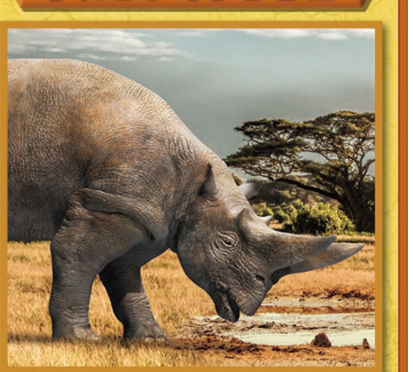
●サル目ヒト科●身長120～140cm●アフリカ●鮮新世

アストラポテリウム

サイやバクに似ていますが、雷獣目という中新世に絶滅したグループの動物です。4本の犬歯がのびて、きばのようになっていました。水辺や川の浅いところにすみ、植物を食べていたと考えられています。

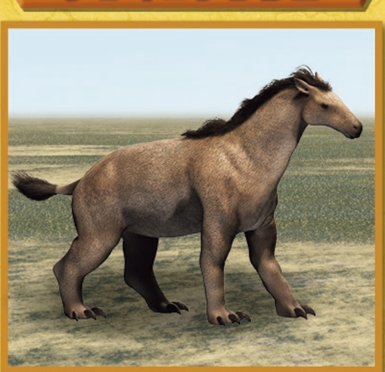
●雷獣目アストラポテリウム科●全長2.5m●南アメリカ（アルゼンチン、チリ）●中新世

アルゲンタヴィス

飛ぶ鳥としては最大級の種の1つで、史上もっとも重い種といわれています。羽ばたきはあまり得意ではなく、山の斜面などを走り下りながら飛び立ち、風にのってかっ空していたと考えられています。

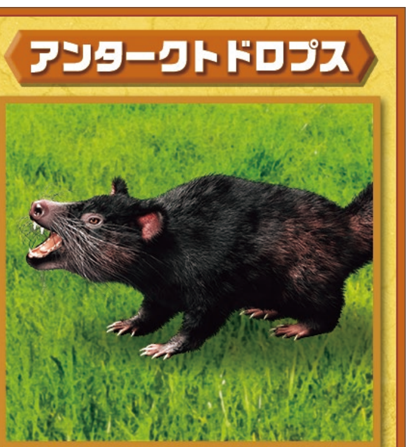
●タカ目テラトルニス科●翼開長5.5～6m●中央・南アメリカ●中新世

アルシノイテリウム

頭にふたまたに分かれた大きな角があります。サイの角が毛と同じ成分でできているのとはちがい、アルシノイテリウムの角は骨でできていました。湿地などにすみ、かたい植物を食べていたと考えられています。

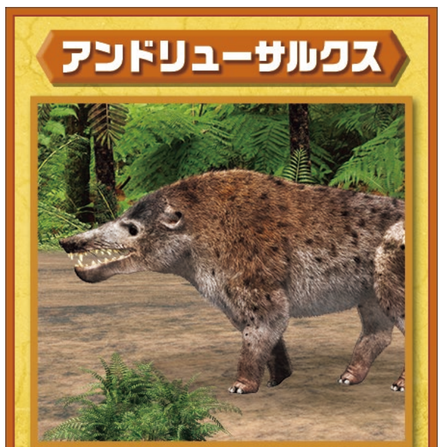
●重脚目アルシノイテリウム科●体長3.5m●アフリカ●始新世～漸新世

アンキロテリウム

カリコテリウムのなかまで、草原でくらしていました。カリコテリウム科の多くはゆびを曲げて前あしの甲を地面につけて歩きますが、アンキロテリウムは前あしのうらを地面につけて歩いていたと考えられています。

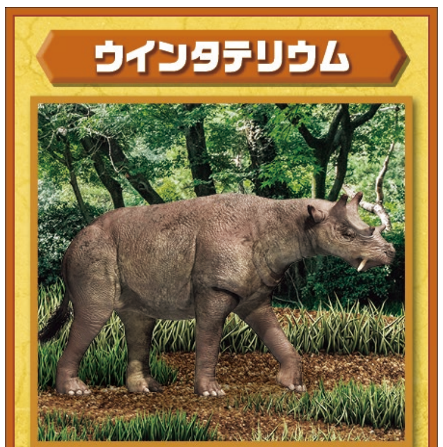
●奇蹄目カリコテリウム科●体高2m●アフリカ、ユーラシア●中新世～更新世

アンタークトドロプス

オポッサムに似たすがたの有袋類ですが、近いなかまではありません。始新世の南極にたくさんすんでいたとされ、果実や昆虫などを食べる雑食性だったと考えられています。

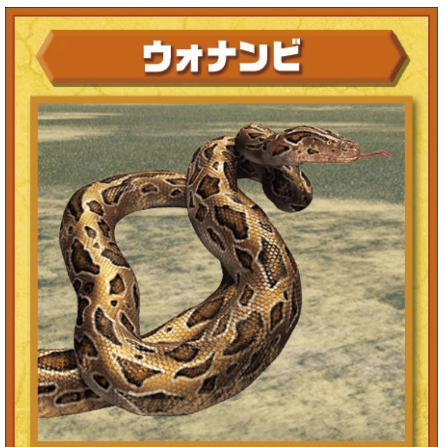
●ポリドロプス形目ポリドロプス科●体長20～25cm●南極（シーモア島）●始新世

アンドリューサルクス

大きな頭骨の化石だけが見つかっています。歯の先がすり減って丸くなっていることから、生きたえものをおそうのではなく、動物の死がいなどを食べていたと考えられています。エンテロドンのなかまという説もあります。

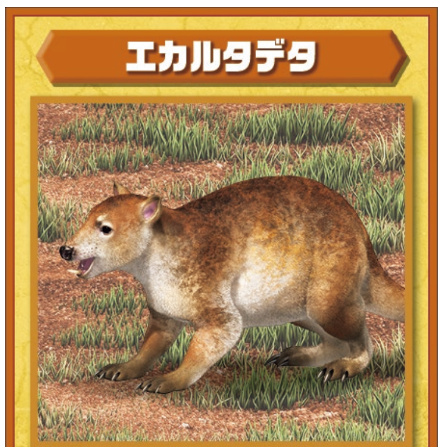
●肉歯目メソニクス科●体長3～3.5m●ユーラシア（中国、モンゴル）●始新世

ウインタテリウム

現在のサイに似たすがたの、大型のほ乳類です。3対6本の角をもち、全身が厚い皮におおわれていたと考えられています。上あごにはきばがありますが、舌を使って植物を集めて食べていたともいわれています。

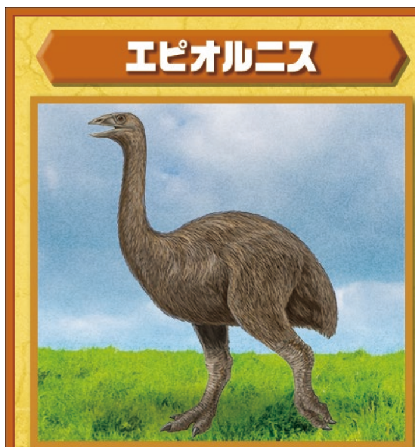
●恐角目ウインタテリウム科●体長3m●北アメリカ、アジア●始新世

ウォナンビ

電柱と同じくらいの太さがある、大きなヘビです。水辺でカンガルーなどのえものを待ちぶせ、とらえたえものは強い力でしめ殺したと考えられています。第四紀の更新世まで生息していました。

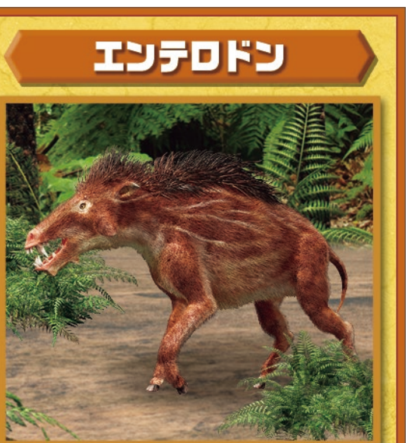
●有鱗目ヘビ亜目マッツォイア科●全長5～6m●オーストラリア●中新世～更新世

エカルタデタ

現在のカンガルーのなかまは植物を食べますが、エカルタデタは肉も食べたと考えられています。大きいものは体重が60kgくらいあったとされ、後ろあしでとびはねることはできなかったかもしれません。

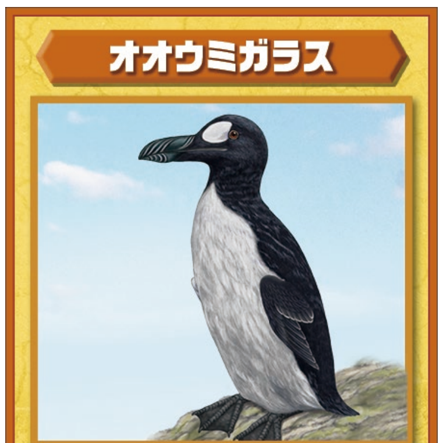
●カンガルー目ニオイネズミカンガルー科●体高1.5m●オーストラリア●漸新世～中新世

エピオルニス

マダガスカル島にいた巨大な飛べない鳥で、あまり速く走れませんでした。そのため、島にうつり住んできた人間に狩られたり、卵をとられたりして、絶滅してしまいました。

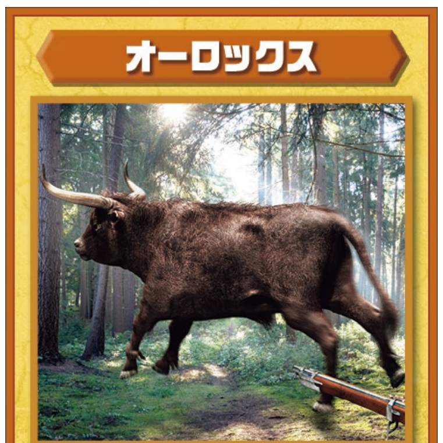
●エピオルニス目エピオルニス科●頭までの高さ3m●アフリカ（マダガスカル島）●更新世～完新世

エンテロドン

イノシシに似ていますが、近いなかまというわけではありません。植物や肉などさまざまなものを食べていたと考えられています。

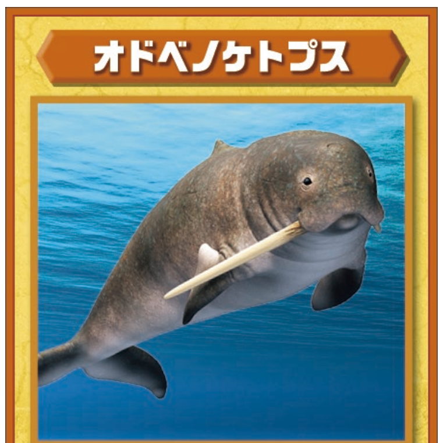
●クジラ偶蹄目エンテロドン科●体長1.5～1.8m●ユーラシア、北アメリカ●始新世～漸新世

オオウミガラス

北大西洋の島じまにいた、飛べない海鳥です。食料にしたり、羽根をとったりするために乱獲されて数が減りました。

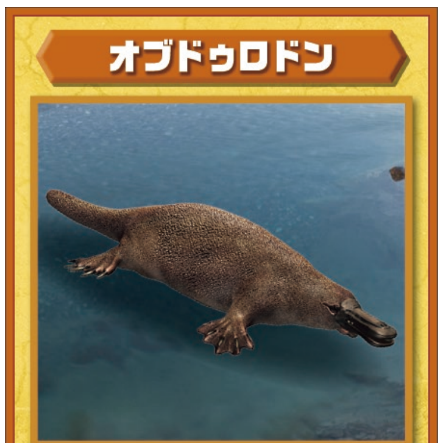
●チドリ目ウミスズメ科●全長75cm●ユーラシア（北大西洋）●完新世

オーロックス

ヨーロッパ、アジア、北アフリカなどにいた野生のウシです。森林で群れをつくってくらしていましたが、気候変動や人間による狩りによってしだいに数が減り、野生のものは1627年に最後の1頭が死んで絶滅しました。

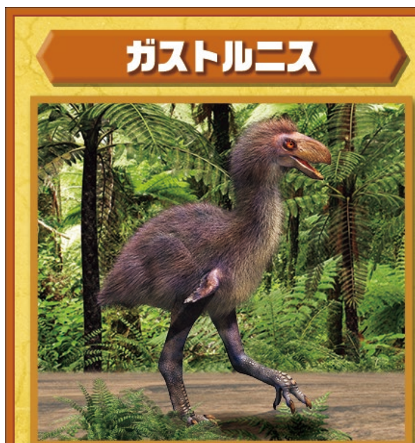
●クジラ偶蹄目ウシ科●体高1.8m●ユーラシア、アフリカ北部●完新世

オドベノケトプス

ハクジラのなかまですが、すがたはセイウチに似ていて、オスは右の前歯だけが後ろ向きに長くのびていました。現在のセイウチと同じように海底の貝などを食べていたと考えられています。

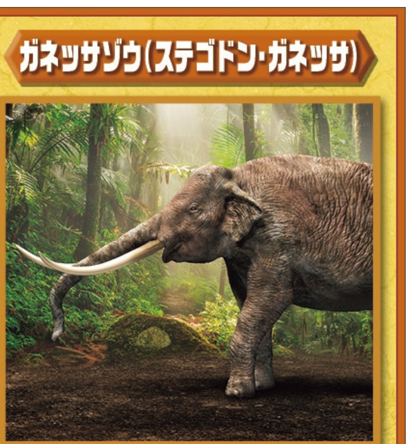
●クジラ偶蹄目オドベノケトプス科●体長2.1m●南アメリカ（ペルー、チリ）●鮮新世

オブドゥロドン

原始的なカモノハシで、からだは現在のカモノハシより大きく、上向きのくちばしをもち、あごには奥歯が生えていました。甲殻類や昆虫などを食べていたと考えられています。

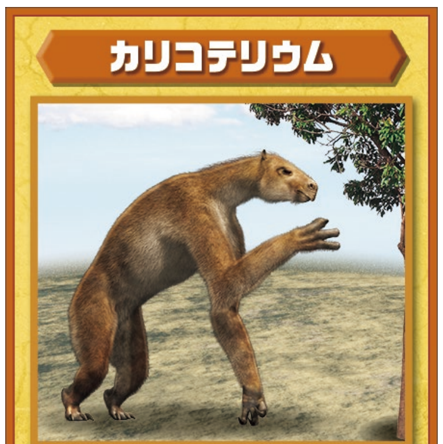
●カモノハシ目カモノハシ科●体長50cm●オーストラリア●漸新世～中新世

ガストルニス

地上でくらしていた巨大な鳥です。翼が小さくて飛べませんでしたが、がんじょうな後ろあしで地上を歩きまわりました。

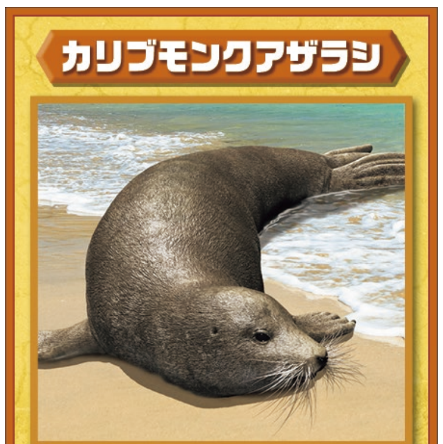
●ガストルニス目ガストルニス科●頭までの高さ2m●ユーラシア（ヨーロッパ、中国）、北アメリカ●暁新世～始新世

ガネッサゾウ（ステゴドン・ガネッサ）

現在13の種が知られているステゴドンのなかまのうち、最大の種の1つです。アフリカゾウよりも大きなからだで、頭はやや細長く、前向きのとても長いきばをもっていました。

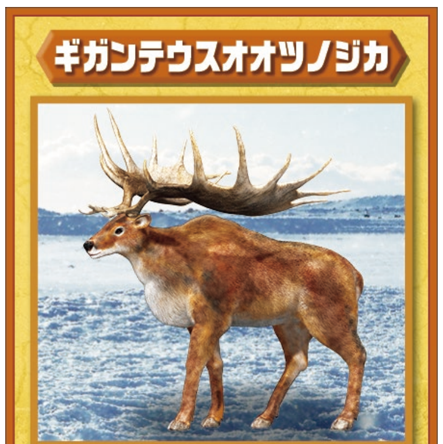
●ゾウ目ステゴドン科●体高3m●インド●鮮新世

カリコテリウム

顔はウマに似ていますが、前あしにひづめではなく、かぎづめをもっている点が大きくことなります。現在のゴリラのように、前あしのゆびを曲げて、地面にこぶしをつくような体勢で歩いたと考えられています。

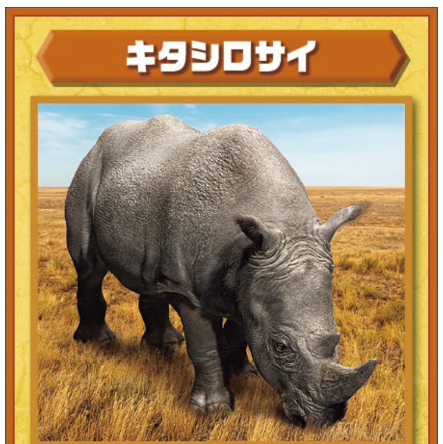
●奇蹄目カリコテリウム科●全長2m●ユーラシア●中新世～鮮新世

カリブモンクアザラシ

フロリダ半島周辺の島にすんでいました。人間に乱獲されたほか、繁殖地であるカリブ海が観光地化され、サンゴしょうが破壊されてえものがとれなくなったことなどが絶滅の原因とされています。1952年を最後に、すがたを消しました。

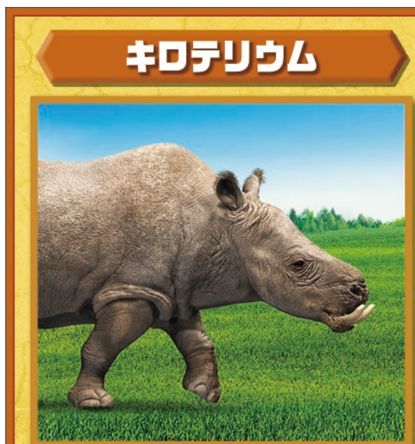
●ネコ目アザラシ科●体長2～2.3m●中央アメリカ（フロリダ半島～カリブ海）●完新世

ギガンテウスオオツノジカ

左右のはばが3m以上もある巨大な角をもつ大きなシカです。体重は最大700kgで、史上もっとも重いシカとして知られています。このなかまで現在も生き残っているのがダマジカです。

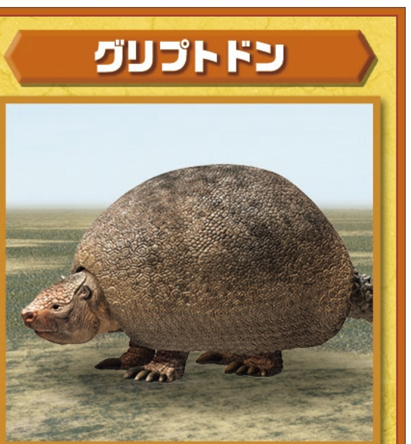
●クジラ偶蹄目シカ科●体高2.1m●ユーラシア●鮮新世～完新世

キタシロサイ

シロサイの亜種です。1970年代以降、みつりょうによって数が減り続け、1990年代後半にはコンゴ民主共和国で起きた内戦のえいきょうでほご活動が続けられなくなりました。2008年に野生絶滅となり、2022年現在、2頭のメスのみがほごされています。

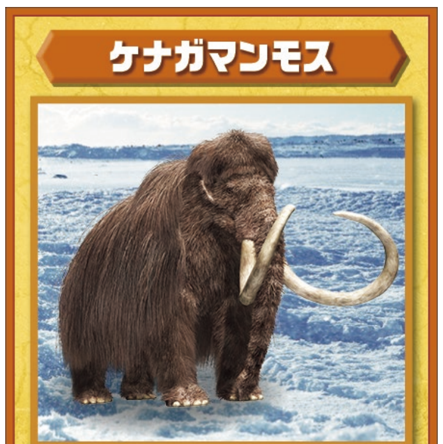
●ウマ目サイ科●体長3.7～4m●アフリカ中央部●完新世

キロテリウム

絶滅したサイのグループで、20種ほどが知られています。角がないか、あってもとても小さく、下あごから1対の大きなきばが前につき出ていました。

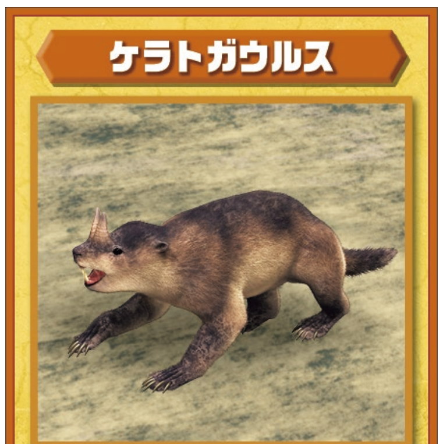
●奇蹄目サイ科●全長1.5～1.8m●ユーラシア●中新世～鮮新世

グリプトドン

現在のアルマジロに近いグループで、せなかにもり上がった甲ら（鱗甲板）をもっていました。危険を感じたときは甲らの中にあしをかくして身を守り、表面がギザギザのかたい出っぱりにおおわれた尾をふりまわして敵と戦ったと考えられています。

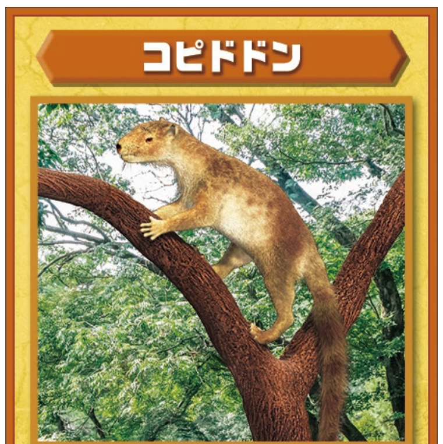
●アルマジロ目グリプトドン科●全長3.3m●中央アメリカ、南アメリカ●更新世

ケナガマンモス

もっとも広く知られているマンモスです。長い毛をもち、氷河期の寒さから身を守っていました。約4000年前に絶滅しましたが、おもな原因はヒトによる狩りや気候変動のえいきょうだったといわれています。

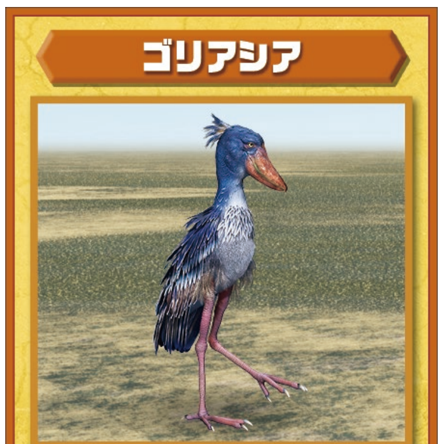
●ゾウ目ゾウ科●体高2.6～3.4m●ユーラシア（日本をふくむ）、北アメリカ●更新世～完新世

ケラトガウルス

鼻の上に2本の角をもつネズミ目のなかまです。この角がなにに使われていたのかはよくわかっていません。前あしに長いつめがあり、あなを掘ってくらしていたと考えられています。

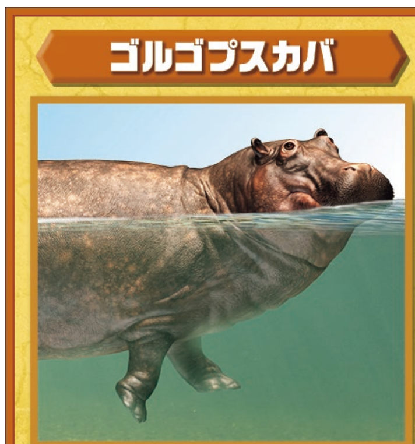
●ネズミ目ミラガウルス科●体長30cm●北アメリカ●中新世～鮮新世

コピドドン

木の上でくらしていたリスのような動物です。木の上でバランスをとるための長い尾をもっていました。毛皮まで保存された化石がドイツで発見されています。おもに植物を食べ、大きな犬歯は身を守るために使ったと考えられています。

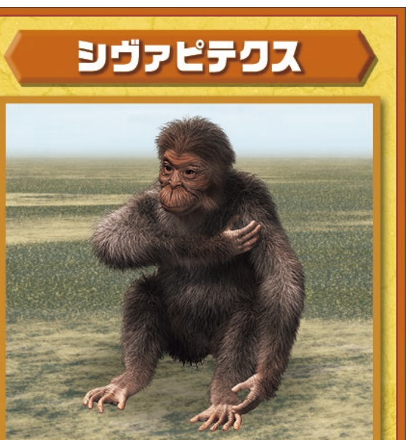
●キモレステス目パロクシクラエヌス科●全長1.1●ユーラシア（ヨーロッパ）●始新世

ゴリアシア

現在のハシビロコウに近いなかまと考えられ、同じくらいの大きさだったようです。植物のしげる湿地にすみ、ハシビロコウと同じようにハイギョなどを食べたといわれています。

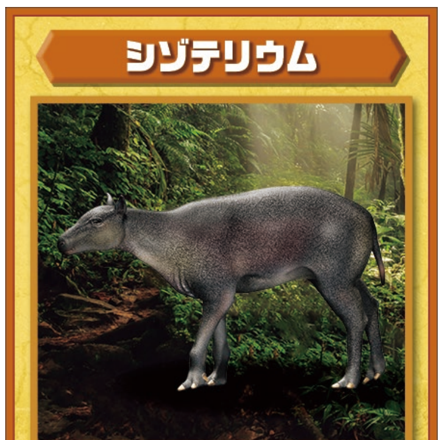
●ペリカン目ハシビロコウ科●頭までの高さ1.1～1.4m●アフリカ●漸新世

ゴルゴプスカバ

アフリカ大陸東部にすんでいたカバの絶滅種で、目が現在のカバよりも頭の上につき出ていました。現在のカバと同じように、水の中で長い時間をすごしていたと考えられています。

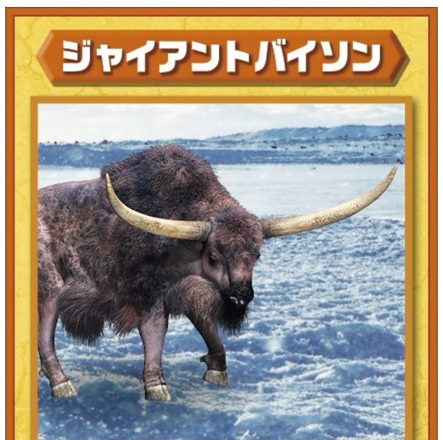
●クジラ偶蹄目カバ科●全長4.3m●アフリカ、ユーラシア●鮮新世～更新世

シヴァピテクス

アフリカからトルコをへて、南アジアへ広がったと考えられています。4本あしで歩いていました。オランウータンの祖先ではないかともいわれています。

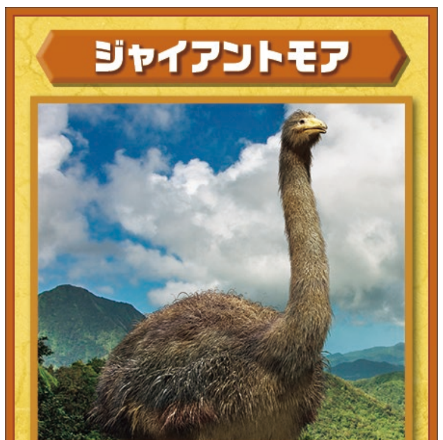
●サル目ヒト上科●体長1.5m●中新世●中新世

シソテリウム

ウマのような細長い頭をしています。大きく発達した奥歯をもっていて、すんでいる場所に合わせてさまざまな植物を食べていたと考えられています。

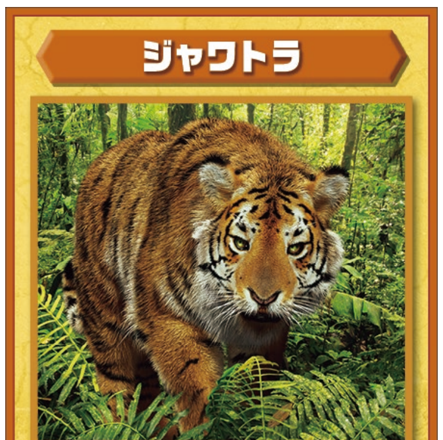
●奇蹄目カリコテリウム科●体高1.2m●ユーラシア●始新世

ジャイアントバイソン

ベーリング陸橋（現在のベーリング海にあった陸地）を通ってユーラシア大陸からアメリカ大陸にやってきたステップバイソンの子孫と考えられています。史上最大級のバイソンで、現在のバイソンとくらべて1.3～1.5倍の重さがありました。

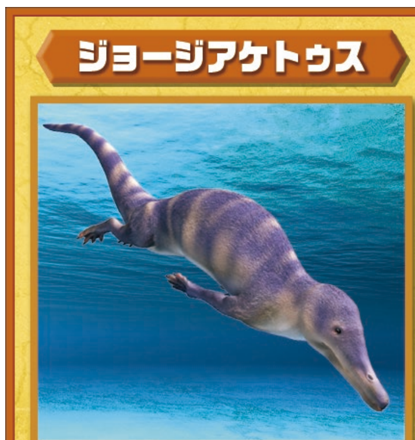
●クジラ偶蹄目ウシ科●体高2.3～2.5m●北アメリカ●更新世

ジャイアントモア

ニュージーランドにすんでいた世界最大級の鳥です。オスよりもメスのほうが大きく、もっとも大きなものでは頭までの高さが4m近くもありました。翼はなく、飛ぶことはできません。人間が食用として乱獲したため絶滅してしまいました。

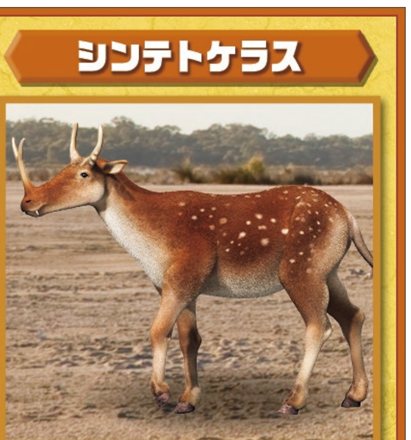
●モア目モア科●頭までの高さ3.6m●ニュージーランド●更新世～完新世

ジャワトラ

インドネシアのジャワ島だけにいたトラです。トラは古くから毛皮や、薬の原料とする骨などを目的に人間に狩られてきました。狩り自体を楽しむトラ狩りもおこなわれ、1940年代には同じインドネシアのバリ島だけにいたバリトラが絶滅しました。

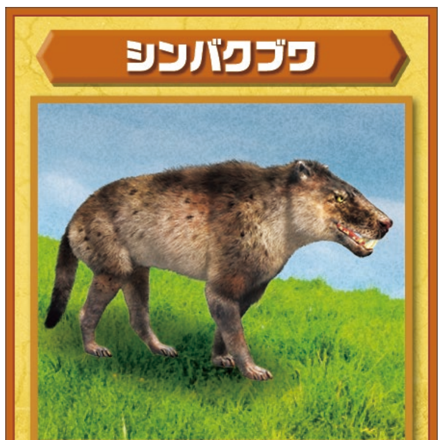
●ネコ目ネコ科●全長2.1～2.5m●東南アジア（ジャワ島）●完新世

ジョージアケトゥス

原始的なクジラのなかまです。あしは4本あったようですが、陸上では体重をささえきれず、水中でくらしていたといわれています。尾はひれ状ではなかったため、後ろあしの動きやからだをくねらせて泳いだと考えられています。

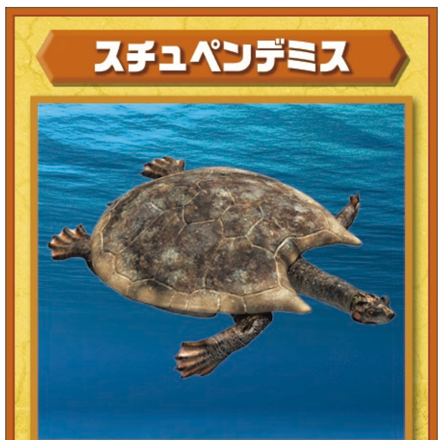
●クジラ偶蹄目プロトケトゥス科●全長3.3m●北アメリカ●始新世

シンテトケラス

見た目はややシカに似ていますがラクダに近い種で、オスは頭の上の2本の角のほかに、鼻の上にY字の角をもっていました。

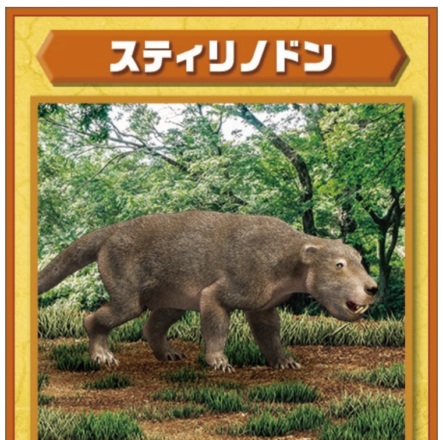
●クジラ偶蹄目プロトケラス科●体長2m●北アメリカ●中新世

シンバクブワ

肉歯目というグループの動物です。サイやゾウの祖先などを食べる、生息地域でもっとも強い肉食動物だったと考えられています。

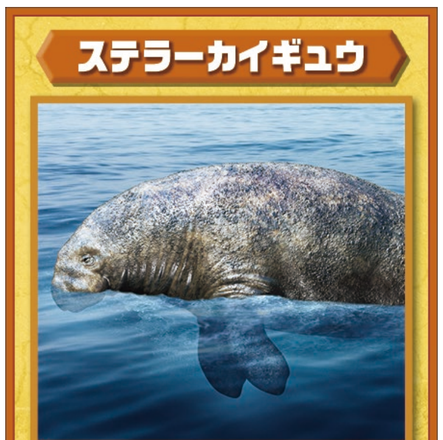
●肉歯目ヒアエノドン科●体長3.8m●アフリカ（ケニア）●中新世

スチュペンデミス

とても大きなカメです。大きな川のそばにすみ、植物のほか、は虫類や魚などもとらえて食べていたと考えられています。年をとるにしたがって、甲らが平らになったようです。

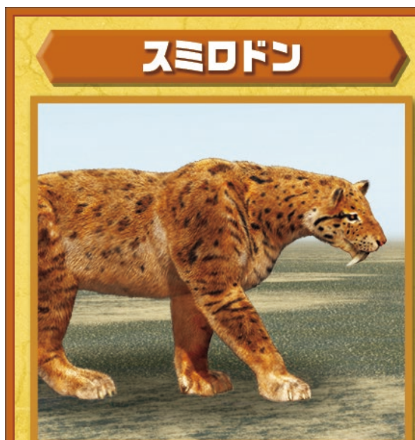
●カメ目ナンベイヨコクビガメ科●甲長2m以上●中央・南アメリカ●中新世～鮮新世

スティリノドン

キモレステス目は恐竜が絶滅したあとに登場した植物食のほ乳類です。スティリノドンは鼻が低くて頭は丸みをおびていました。がんじょうなあごと一生のび続ける歯をもっていて、木の根や地下茎などを前あしで掘り起こして食べたと考えられています。

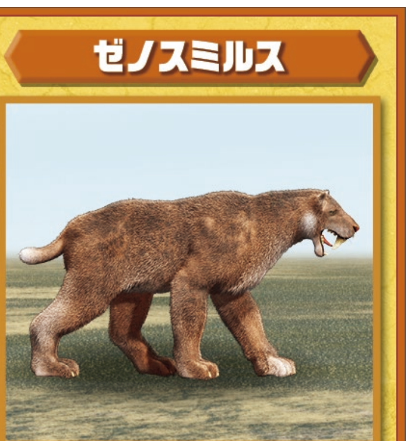
●キモレステス目（紐歯類）スティリノドン科●体長1.3m●北アメリカ●始新世

ステラーカイギュウ

ベーリング海にいた、巨大なジュゴンのなかまです。浅い海で海藻を食べてくらしていました。1741年にロシアの探検隊に見つかってから、肉やあぶらをとるために乱獲され、1768年までに絶滅しました。

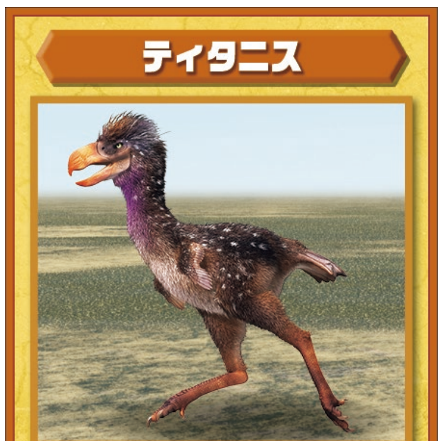
●カイギュウ目ジュゴン科●全長8m●ユーラシア（ベーリング海）●完新世

スミロドン

大きなきばをもつサーベルタイガーの1つです。ややうすく、のこぎりのようなギザギザのあるきばで、バイソンなどの大きなほ乳類をとらえたと考えられています。

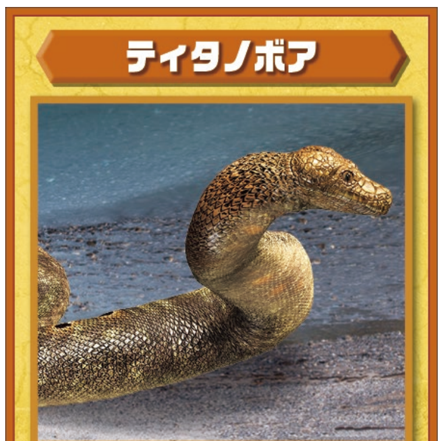
●ネコ目ネコ科●体長1.9～2.1m●北アメリカ、中央アメリカ、南アメリカ●鮮新世～完新世

ゼノスミルス

大きなきばをもつサーベルタイガーの、最後のころに登場した種です。きばのふちがのこぎり状になっているのが特徴です。体重は230～400kgで、草食動物などをおそって食べていました。

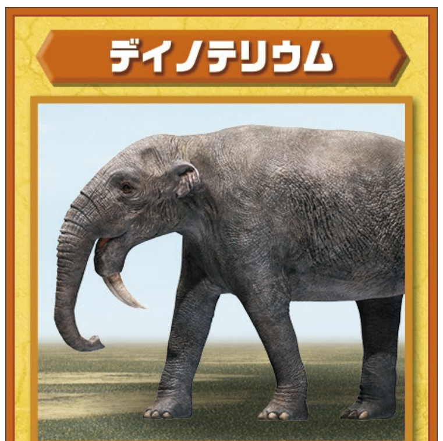
●ネコ目ネコ科●体長1.7～1.8m●北アメリカ●更新世

ティタニス

飛べない巨大な鳥です。肉食性で、長いあしですばやく移動し、するどいつめのついたあしのゆびを使って、小さなほ乳類をとらえたと考えられています。くちばしを狩りの武器として使ったという説もあります。

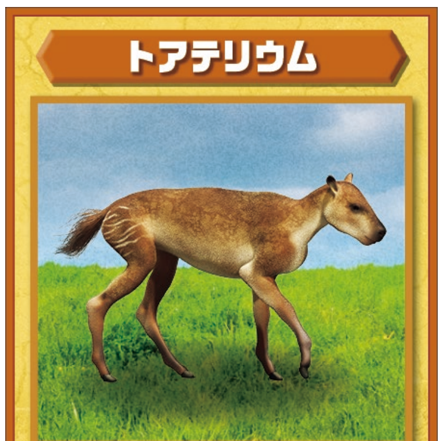
●ノガンモドキ目フォルスラコス科●頭までの高さ1.4～1.9m●北アメリカ、南アメリカ●鮮新世～更新世

ティタノボア

南アメリカのコロンビアで発見された、史上最大級のヘビです。熱帯雨林の川や、川岸でくらしていたと考えられています。

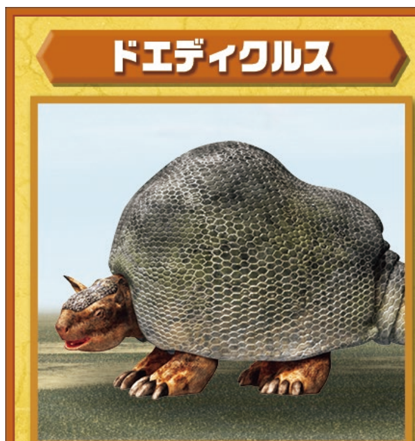
●有鱗目ボア科●全長13m●南アメリカ●暁新世

デイノテリウム

中新世前期から更新世前期にかけて、アフリカからヨーロッパ、アジアまで広がっていました。きばは2本で、下あごから下向きに生えていました。このきばで木の皮などをはがして食べていたと考えられています。

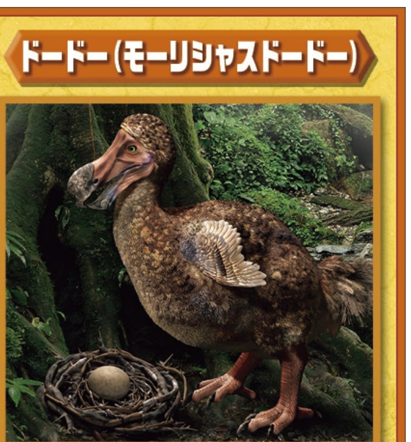
●ゾウ目デイノテリウム科●体高3.5～4m

トアテリウム

小型のウマのような動物でした。ウマより先に、草原を走るのに適した1本ゆびになりましたが、のちに南アメリカに進出したウマとの生存競争に負けて絶滅したと考えられています。

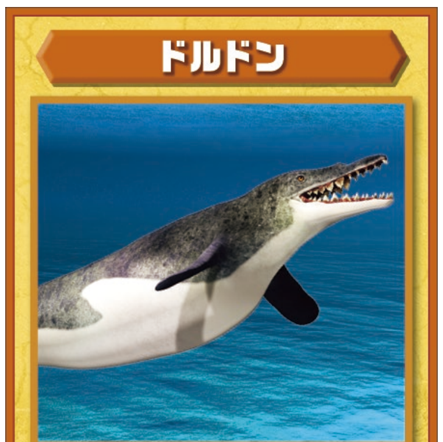
●滑距目プロテロテリウム科●体長70cm●南アメリカ（アルゼンチン）●中新世

ドエディクルス

巨大なアルマジロ目のなかまで、グリプトドン科で最大の種です。棒のように長い尾の先には何本ものとげがありました。おもに草を食べていたと考えられています。

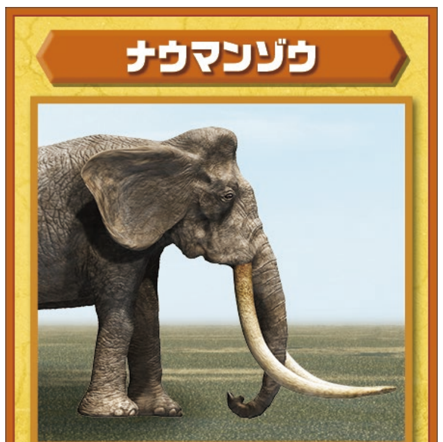
●アルマジロ目グリプトドン科●全長4m●南アメリカ（アルゼンチン）●鮮新世～更新世

ドードー（モーリシャスドードー）

マダガスカル島の約900km東にあるモーリシャス島にすんでいた鳥です。島には天敵がいなかったため、翼が小さく退化し空を飛べませんでした。

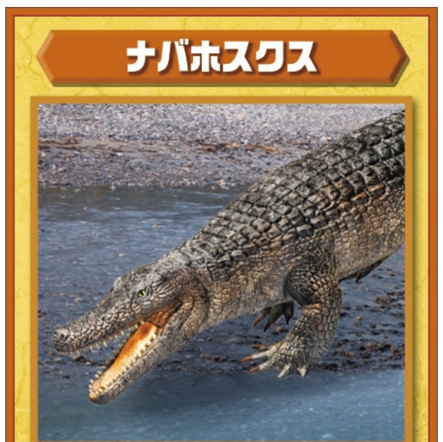
●ハト目ドードー科●頭までの高さ1m●アフリカ（モーリシャス島）●完新世

ドルドン

あたたかい海でくらしていたクジラのなかまです。後ろあしはほとんど退化していますが、わずかに残っていました。化石になった胃の内容物が見つかっていて、魚を食べていたことがわかっています。

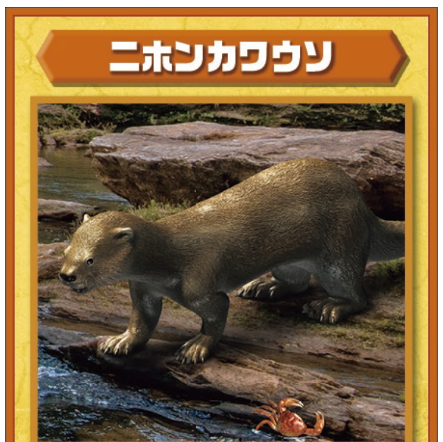
●クジラ偶蹄目バシロサウルス科●全長5.5m●アフリカ、ヨーロッパ、北アメリカ、ニュージーランド●始新世

ナウマンゾウ

更新世中期から後期（約43万年～2万8000年前）にかけて生息していたゾウです。ケナガマンモスよりひとまわり小さいからだをしていました。きばはメスにもあり、メスのほうが細くて短かったことがわかっています。

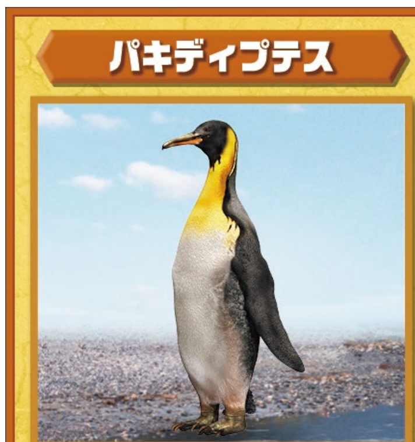
●ゾウ目ゾウ科●体高2.5～3m●ユーラシア（中国、日本）●更新世

ナバホスクス

現在のアリゲーター科のワニに近い小型のワニです。川の近くの平地にくらしていました。

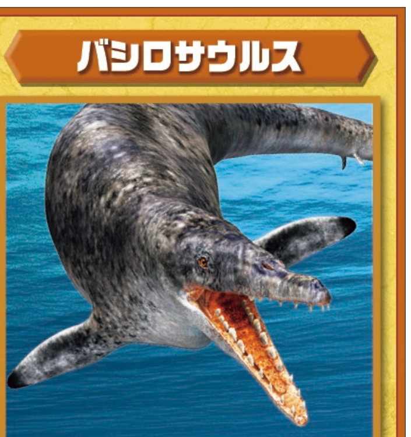
●ワニ目アリゲーター上科●全長1.5m●北アメリカ●暁新世

ニホンカワウソ

明治時代まで日本各地にいたカワウソで、ユーラシアカワウソの亜種です。毛皮をとるために乱獲されたり、開発が進んですみかである川の環境が悪化したりして、数が減っていきました。

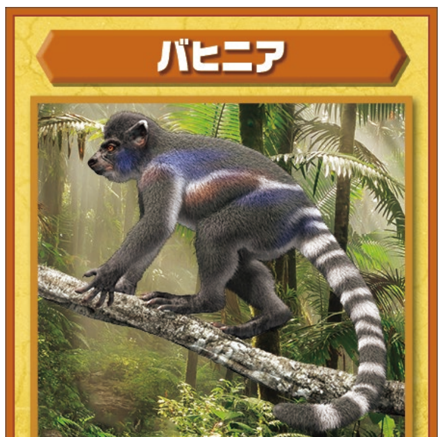
●ネコ目イタチ科●体長55～58cm●日本各地●完新世

パキディプテス

「ジャイアントペンギン」ともよばれ、見つかっているなかで最大のペンギンの1つとされています。体重がもっとも重かったであろうといわれています。翼の骨は長くて厚みがあり、ずんぐりとしたすがたでした。

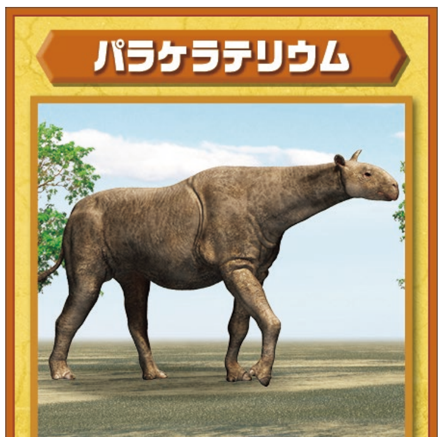
●ペンギン目ペンギン科●頭までの高さ1.4～1.6m●ニュージーランド●始新世

バシロサウルス

大型のクジラのなかまです。からだの長さに対して頭がとても小さいのが特徴です。水中での生活に適応して、後ろあしは退化しています。

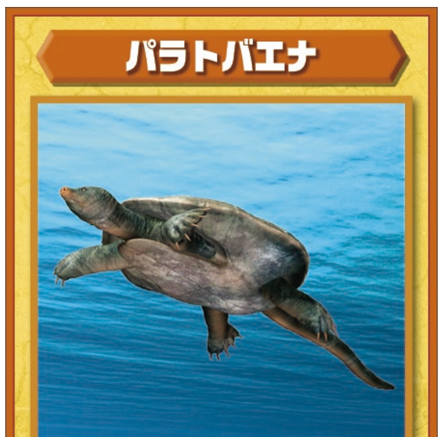
●クジラ偶蹄目バシロサウルス科●全長20m●北アメリカ、南アメリカ、アジア、アフリカ●始新世

バヒニア

真猿類とよばれる、ヒトをふくむグループにふくまれると考えられています。同じ時期にくらしていたほかのサル目のなかまにくらべて、原始的な歯のならびをしています。

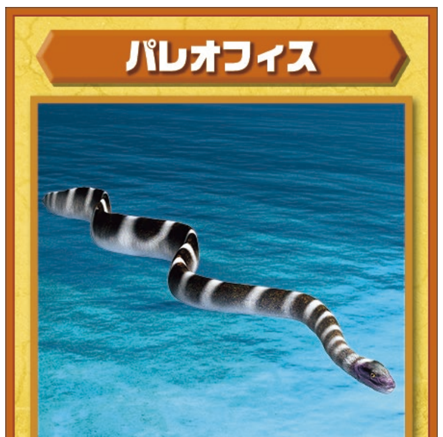
●サル目エオシミアス科●体長30cm●東南アジア（ミャンマー）●始新世

パラケラテリウム

角のないサイのなかまで、陸上にすむほ乳類のなかでは史上最大級でした。あしが長いため、走るのが速かったともいわれています。首が長く、木の高い場所の葉も食べることができました。

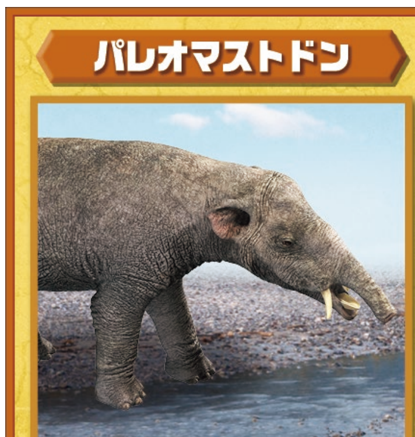
●奇蹄目パラケラテリウム科●体高4.5m●ユーラシア●始新世～漸新世

パラトバエナ

川の浅いところにすんでいたカメです。白亜紀末の大量絶滅を生き残りました。

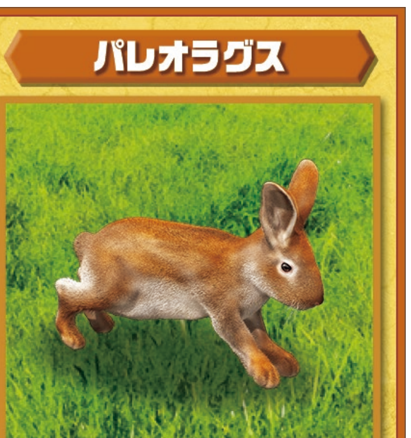
●カメ目バエナ科●甲長28.5cm●北アメリカ●白亜紀～始新世

パレオフィス

河口部をふくむ海にすんでいたウミヘビです。からだはたてに平らになっています。化石の研究から、新しく血管がつくられるのがはやかったことがわかり、現在のヘビよりも成長がはやかったと考えられています。

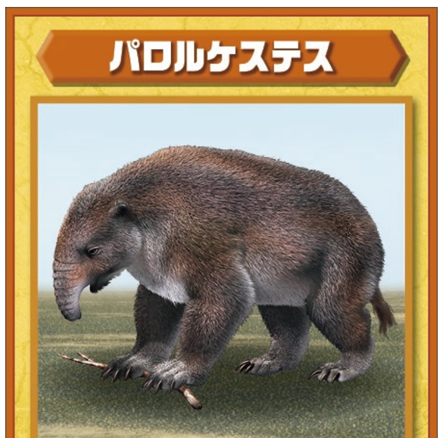
●有鱗目ヘビ亜目ウミヘビ科●全長9m●アフリカ、ヨーロッパ、北アメリカ●始新世

パレオマストドン

初期のゾウの1つで、鼻がやや長くなっていたとされています。湿地で半水生の生活を送り、植物を食べていたと考えられています。上下に2本ずつきばをもっていましたが、下のきばは平べったくて、口から前に向かってのびていました。

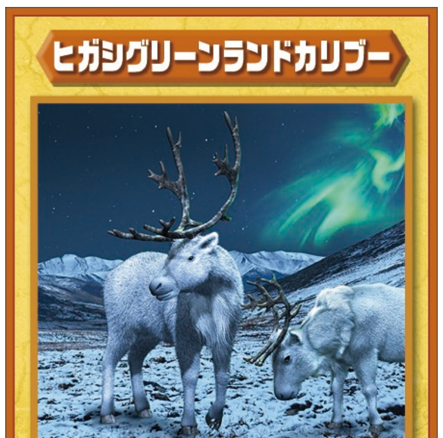
●ゾウ目パレオマストドン科●体高2.2m●アフリカ●始新世～漸新世

パレオラグス

知られているかぎり、もっとも古い時代のウサギ類の1つです。後ろあしはいまのウサギほど長くなく、ジャンプはあまり得意ではありませんでした。

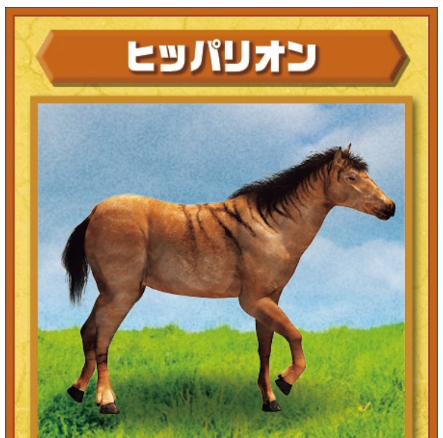
●ウサギ目ウサギ科●体長30cm●北アメリカ、ユーラシア●始新世～漸新世

パロルケステス

鼻が長く、バクに似たすがたをしていました。するどいかぎづめと長い鼻で、木の皮などをむいて食べていたと考えられています。

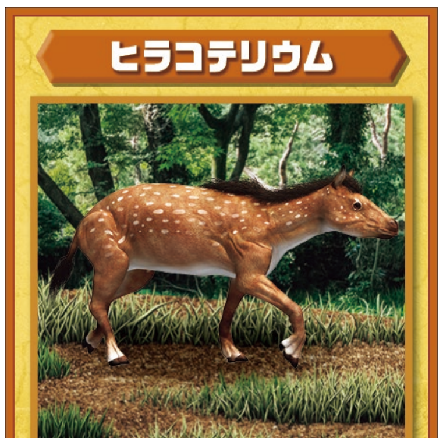
●カンガルー目パロルケステス科●体長2.5m●オーストラリア●中新世～更新世

ヒガシグリーンランドカリブー

トナカイの亜種で、グリーンランドにすんでいました。大きな集団をつくらず、数頭の群れで移動しながらくらしていました。

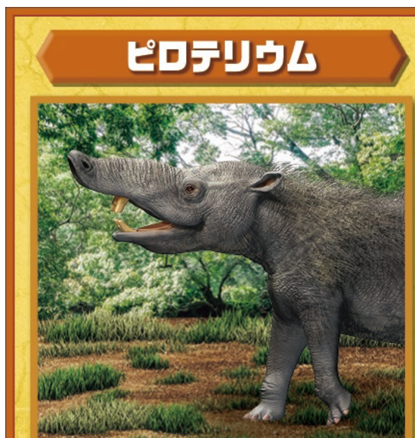
●クジラ偶蹄目シカ科●全長1.7～2.2m●グリーンランド●完新世

ヒッパリオン

進化途中のウマのなかまで、メリキップスの子孫と考えられています。あしのゆびは3本で、そのうち2本が小さいのが特徴でした。草原にすみ、草を食べていました。

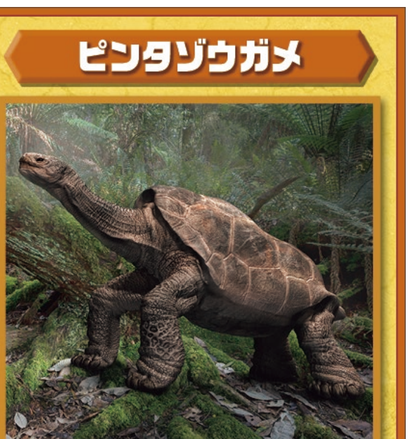
●奇蹄目ウマ科●体高1.4m●ユーラシア、北アメリカ、アフリカ●中新世～更新世

ヒラコテリウム

現在までに発見されているなかで、最古のウマ科の動物です。現在のウマとちがい、前あしには4本、後ろあしには3本のゆびがありました。木の多い場所で葉を食べてくらしていたとされています。

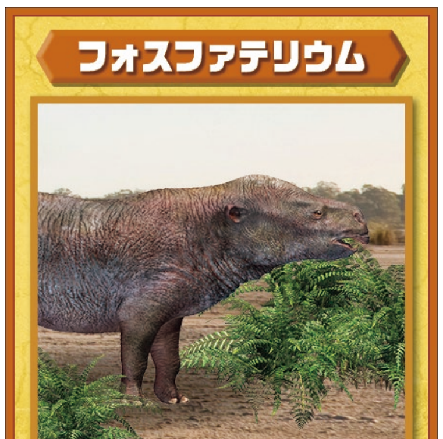
●奇蹄目ウマ科●体高50cm●北アメリカ、ユーラシア●始新世

ピロテリウム

頭骨にある鼻のあなの位置から、ゾウのように鼻が長かったかもしれないと考えられています。上あごに4本、下あごに2本のきばがあり、前につき出ていました。このきばで木の葉や枝などを集めて食べていたようです。

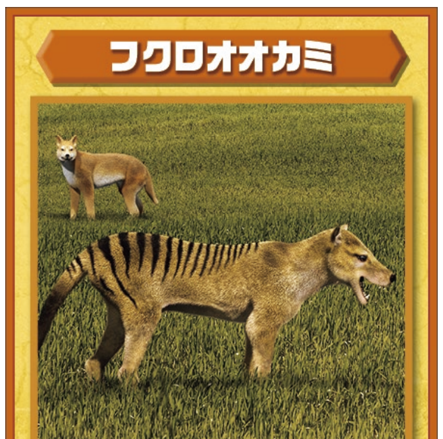
●火獣目ピロテリウム科●体長3m●南アメリカ●漸新世

ピンタゾウガメ

ガラパゴス諸島のピンタ島にすんでいた大型のゾウガメです。天敵がいなかったため動きはのんびりとしていて、地面をゆっくりと歩いてサボテンを食べていました。

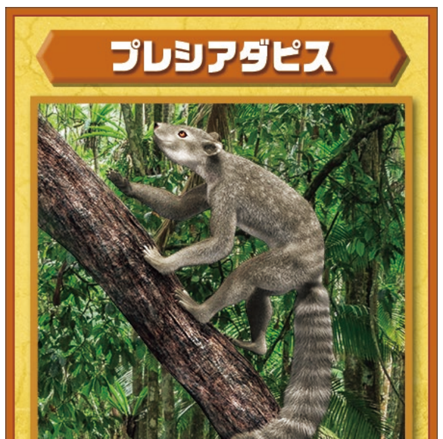
●カメ目リクガメ科●甲らの長さ1m●南アメリカ（ガラパゴス諸島ピンタ島）●完新世

フォスファテリウム

アフリカにあらわれた、ごく初期のゾウで、鼻が短く、カバのようなすがたをしていました。大きさは中型犬くらいで、下の前歯が少し長くなっていました。

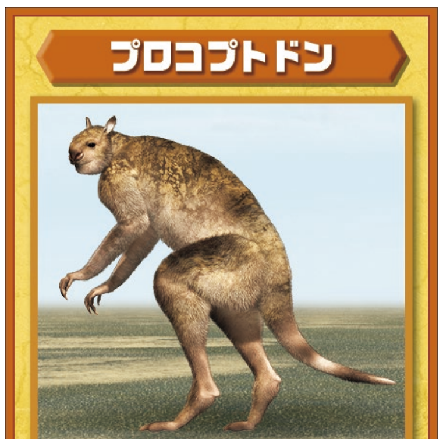
●ゾウ目ヌミドテリウム科●体長60cm●アフリカ●暁新世

フクロオオカミ

肉食の有袋類で、オオカミのようなすがたをしていました。絶滅の原因となったのは人間が連れてきたイヌやイヌ科の動物ディンゴで、競争に負けたフクロオオカミは20世紀なかばには完全に絶滅してしまいました。

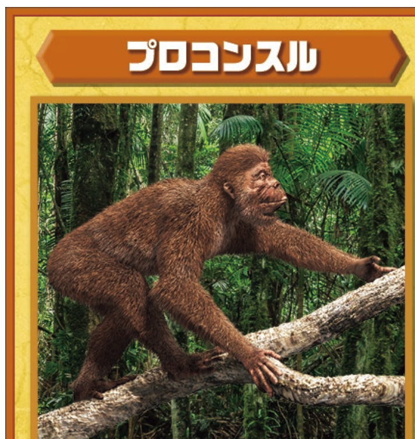
●フクロネコ形目フクロオオカミ科●体長1～1.3m●タスマニア、ニューギニア、オーストラリア●完新世

プレシアダピス

リスのようなすがたをしていますが、サル目に近い種で、木登りが得意でした。

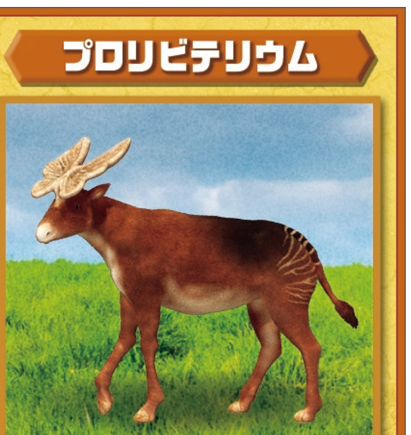
●プレシアダピス目プレシアダピス科●体長50cm●ユーラシア、北アメリカ●暁新世～始新世

プロコプトドン

乾燥した場所にすみ、低木の葉などを食べていました。現在のカンガルーとことなり後ろあしが1本ゆびで、ジャンプはせずにつま先立ちのような歩き方をしたと考えられています。

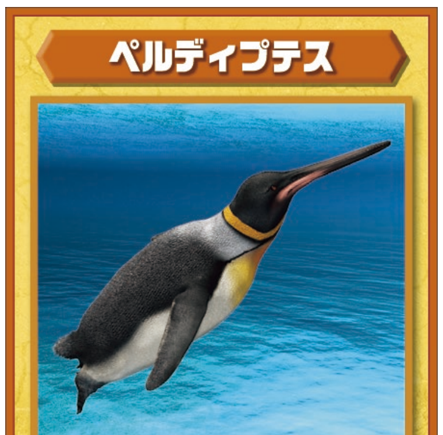
●カンガルー目カンガルー科●体高1～2.7m●オーストラリア●更新世

プロコンスル

木の上でくらし、四足歩行をしていたと考えられています。

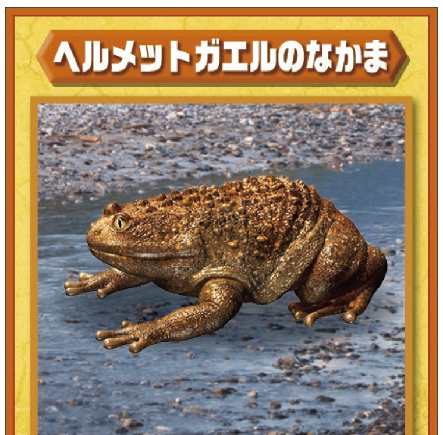
●サル目ヒト上科プロコンスル科●体長70cm●アフリカ●中新世

プロリビテリウム

板状の角をもっているのが大きな特徴で、見た目は現在のオカピに似ていたと考えられています。現在のシカなどと同じように、オスはこの角を使ってほかのオスと戦ったとすいそくされています。

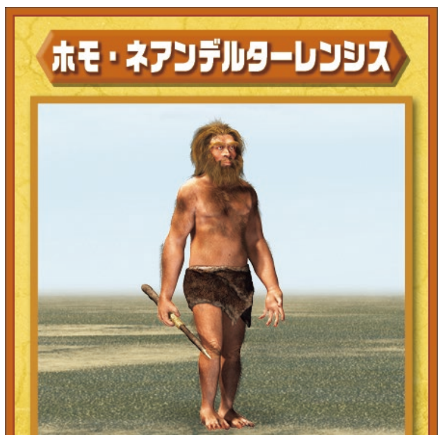
●クジラ偶蹄目キリン科●体長1.8m●東南アジア・南アジア（パキスタン）、アフリカ●中新世

ペルディプテス

イカディプテスと同じく、あたたかい海にすんでいたペンギンです。くちばしは細長くなっていました。骨格から、これまでに見つかっていたもっとも原始的なペンギンと、そのつぎに古いペンギンのあいだをつなぐと考えられています。

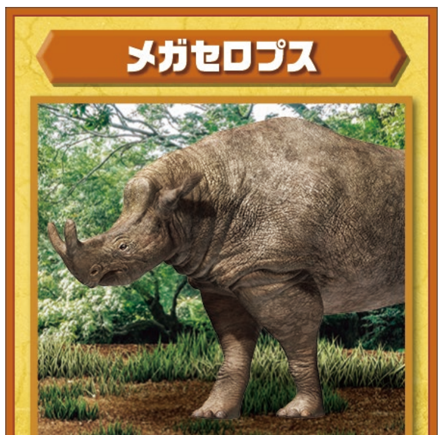
●ペンギン目ペンギン科●頭までの高さ90cm●南アメリカ（ペルー）●始新世

ヘルメットガエルのなかま

頭のはばが広く、大きな口をもっています。湖や、森林を流れる川などでくらしていたと考えられています。南極でも化石が見つかっています。

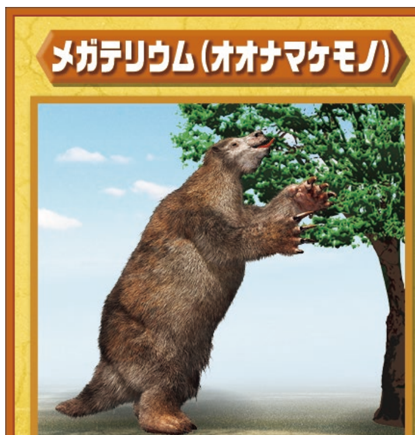
●無尾目ヘルメットガエル科●体長55cm●南アメリカ、南極（シーモア島）●始新世～中新世

ホモ・ネアンデルターレンシス

ホモ・サピエンスと同じ時期にいた人類です。ホモ・サピエンスの亜種とする説もあります。約80～30万年前にあらわれ、約2万年前に絶滅しましたが、原因は気候変動や病気の流行などだったと考えられています。

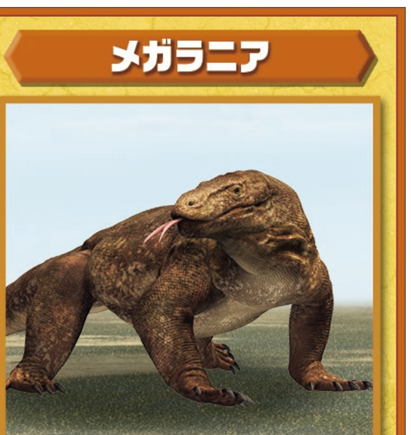
●サル目ヒト科●身長153～165cm●ユーラシア、アフリカ●更新世

メガセロプス

ブロントテリウム科でもっとも大きいものの1つです。サイに似ていましたが、サイよりもウマに近い動物でした。鼻の上にY字形の角があります。群れをつくり、木の葉を食べてくらしていたと考えられています。

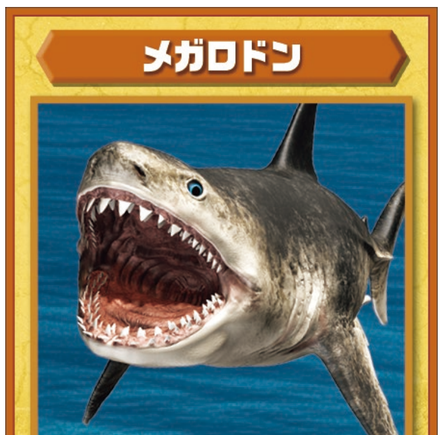
●奇蹄目ブロントテリウム科●体高2.5m●北アメリカ●始新世～漸新世

メガテリウム（オオナマケモノ）

地上にすむナマケモノのなかまとしては最大級で、体重は最大で4tにもなりました。森林や草原にすんでいました。後ろあしで立ち上がり、前あしの先についたするどいかぎづめを使って、木の葉を引きよせて食べていたと考えられています。

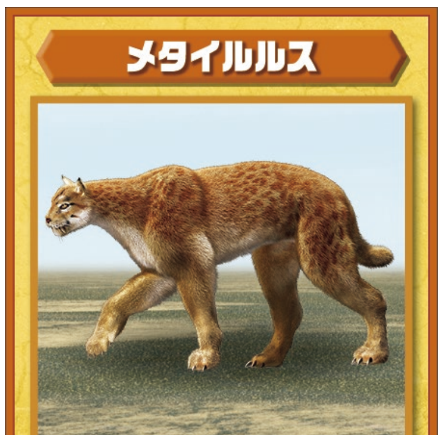
●アリクイ目メガテリウム科クイ目メガテリウム科●体長6m●中央・南アメリカ●鮮新世～更新世

メガラニア

大きいものでは体重が2t近くにもなったともいわれる巨大なオオトカゲです。以前はオオトカゲ属とは別のメガラニア属とされていました。

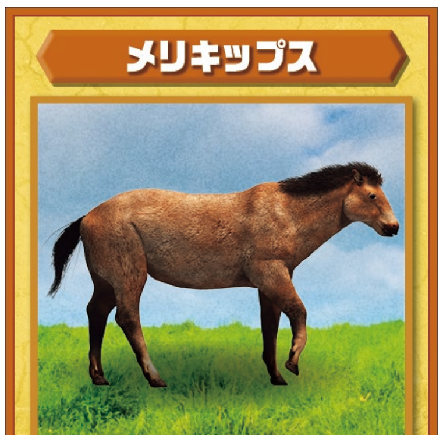
●有鱗目トカゲ亜目オオトカゲ科●全長7m●オーストラリア●更新世

メガロドン

ほかの魚やクジラなどを食べるサメとしては、史上もっとも大きなからだをもっていたと考えられています。かむ力は現在のホホジロザメの6～10倍だったといわれています。

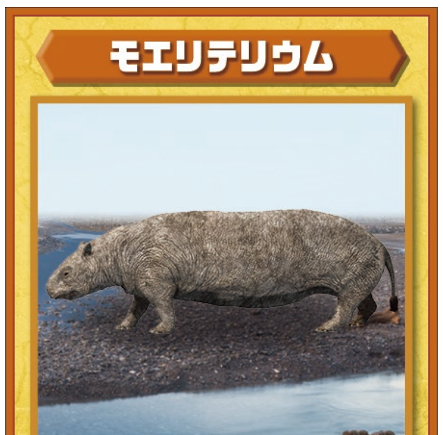
●ネズミザメ目オトドゥス科●全長16m●北アメリカ、日本各地、世界各地●中新世～鮮新世

メタイルルス

サーベルタイガーの1つで、断面が丸いきばをもっていました。後ろあしが長く、ジャンプが得意だったと考えられています。

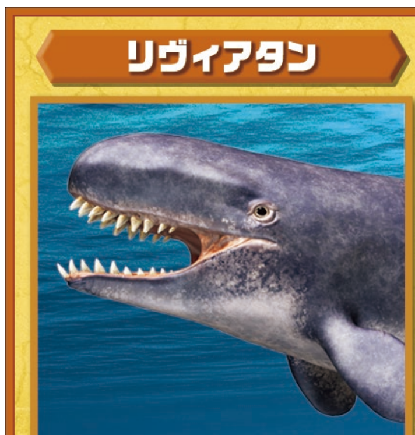
●ネコ目ネコ科●体長1.5m●ユーラシア、北アメリカ、アフリカ●中新世～更新世

メリキップス

進化途中のウマで、草原でかたい草を食べてくらしていました。それまでのウマは、おもに森林にすんでいましたが、気候の変化で森林が減ったことから、草原でくらすようになりました。

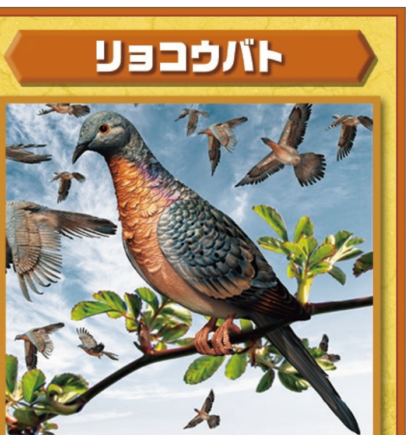
●奇蹄目ウマ科●体高90cm●北アメリカ●中新世～鮮新世

モエリテリウム

ゾウに近い動物ですが、鼻は長くありません。胴が長くてあしが短い、現在のコビトカバのようなすがたをしていました。水辺で半水生の生活を送り、水草などを食べていたと考えられています。

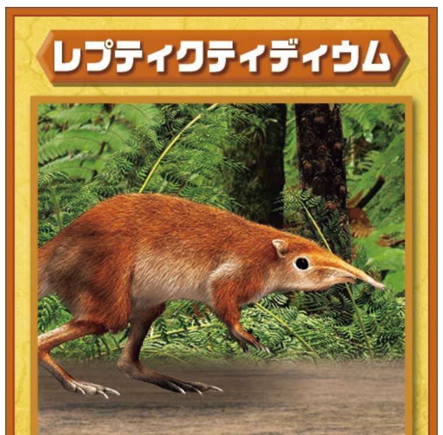
●ゾウ目モエリテリウム科●体長2m●アフリカ●始新世

リヴィアタン

巨大な頭をもつマッコウクジラのなかまですが、現在のマッコウクジラが下あごにしか歯がないのに対し、リヴィアタンは上あごにも歯をもっていました。ほかのクジラやアザラシなどを食べていたと考えられています。

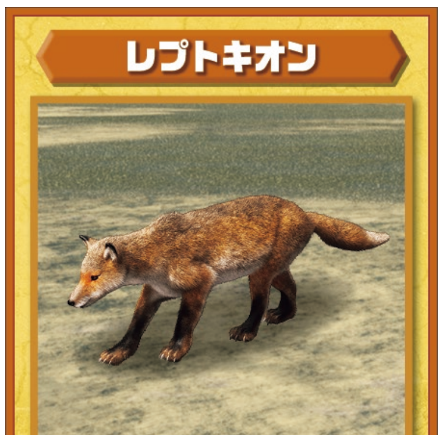
●クジラ偶蹄目マッコウクジラ科●全長13.5～17.5m●南アメリカ（ペルー、チリ）●中新世

リョコウバト

20世紀はじめまでアメリカ大陸にすんでいました。かつては非常に数が多く、18世紀ごろには全世界で50億羽もいたと考えられています。

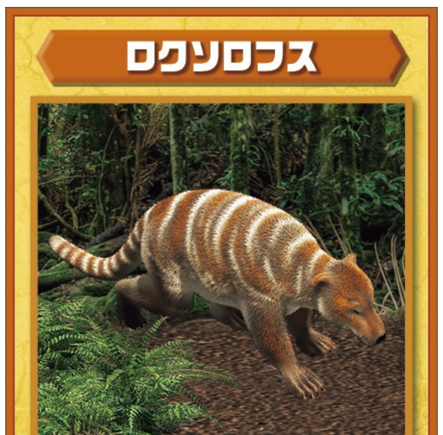
●ハト目ハト科●全長40cm●北アメリカ、中央アメリカ●完新世

レプティクティディウム

全長の半分ほどをしめる長い尾をもっていました。前あしが短く、後ろあしが長いことから、二足歩行をしていたと考えられています。小動物や昆虫などを食べていたようです。

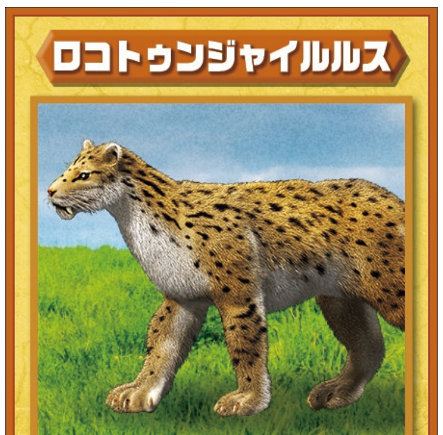
●レプティクティス目レプティクティス科●体長40cm●ユーラシア（ヨーロッパ）●始新世

レプトキオン

原始的なイヌのなかまです。細長いあごと細かい歯をもつキツネのような動物で、おもにすばやく動く小動物や果実などを食べていたと考えられています。

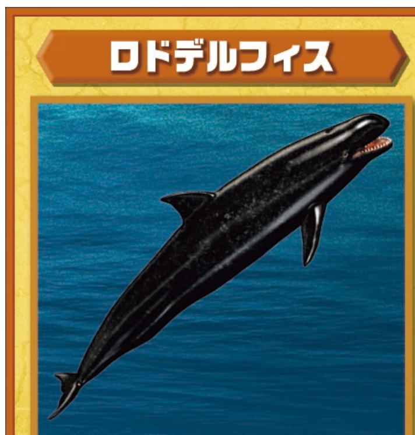
●ネコ目イヌ科●体長90cm●北アメリカ●漸新世～中新世

ロクソロフス

アライグマくらいの大きさのほ乳類です。森林の地面を歩きまわって、食べ物をさがしたと考えられています。

●アークトキオン類●頭骨の長さ10cm●北アメリカ●暁新世

ロコトゥンジャイルルス

大きなするどいきばをもつサーベルタイガーのなかまです。細いからだと長めのあしが特徴で、走るのが得意だったと考えられています。えものをとらえるときには、するどい狼爪（地面につかない親ゆびのつめ）を使ったともいわれています。

●ネコ目ネコ科●体高90cm●アフリカ（ケニア、チャド）●中新世

ロドデルフィス

現在のオキゴンドウに近いハクジラです。体重は550kgほどで、小さな魚を食べていたようです。

●クジラ偶蹄目マイルカ科●体長4m●ユーラシア●更新世

NOT FOR SALE ©KADOKAWA 復元画：服部雅人、小堀文彦